事業報告概要書（公表版）

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
大神山公園	（指定管理者名）公益財団法人　東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
R５．４．１　～　R10．３．31（5年間）	

2　施設名

大神山公園

3　収支(単位:千円)

項目		令和７年度 金額	令和６年度 金額	令和５年度 金額	公園別支出額
収入　計		79,140	69,649	66,788	
内訳	指定管理料	79,140	69,649	66,788	
内訳	利用料金	0	0	0	大神山公園：81,692
内訳	その他収入	0	0	0	
支出　計		81,692	70,188	66,364	
収支差		△2,552	△539	424	

4　管理運営の概要

・地域の声を公園の運営管理に取入れるため、パークミーティングを２回実施。小笠原村産業観光課や観光協会、福祉協議会等、参加団体は昨年度の３団体から今年度は７団体へと拡大した。１回目の会合で出た「園内散策時に現在地が分かりにくい」というご意見に対して、現在地マップを増設することで利便性を改善し、２回目では、その改善結果を報告するなど、地元行政や企業・団体との相互理解を深めた。
・地域の防災意識向上のため、前年度は1回であった「防災体験会」を今年度は２回に増加。車いすの使用方法などをクイズで学ぶイベントとし、参加者は昨年度の７倍以上の81人となった。非常食の配布も行い、物流に課題がある小笠原の島内事情に対応した訓練を実施した。
・地元の小学生の依頼により、総合的な学習の時間で「植物博士になろう！」を島内事業者と連携して実施した。フィールドワークの活動場所として初めて大神山公園を取り入れて園内の植物の生態を学んだ。また、子ども達の取組紹介として、「自分たちにできる保全活動」の解説パネルを園内に展示を設置した。
・砂浜清掃で集めたプラスチックごみの利活用のため、２月に海ごみアートの作成・展示イベントを実施。クジラのオブジェなど、参加者が自由な発想で作成した。作品は砂浜のある葛西臨海公園でも出張展示し、海の環境保全の重要性を伝えた。
・南国の雰囲気を感じる小笠原への観光気分を味わってもらうため、おがさわら丸の入出港など島特有のおもてなし風景の動画を作成。公園協会の公式Webサイト（X（旧Twitter）等）で発信して、「身近に感じられる小笠原」を発信した。

5　管理状況

①維持管理

・子ども達に自然への関心を寄せてもらうため、２月に園内の固有種育成エリアにてシマザクラの苗木の植栽イベントを実施した。イベント後も同エリアに水やりじょうろを常設することで、通りかかった小学生や保育園児などが水やりする姿があった。気軽に固有種保護に参加できる環境を整備した。
・ウミガメが産卵するために快適な砂浜が確保されるように、園内海岸の植栽刈込を東京農業大学の学生ボランティアと協働して実施した。伐根作業までやり遂げた大学生からは「また来年作業に来ます」との声。大変な作業ながら、楽しく環境改善活動が行えた。

②利用者への対応

・クジラの死骸が５月に兄島に漂着し、骨格標本を製作するため大村海岸に埋めた。11月に島内事業者と連携し、本物の骨格に触れながらクジラの大きさを体感してもらうため、砂中の骨を発掘するイベントを初めて実施した。クジラの生態を知る貴重な機会となり、ネットニュースにも取り上げられるなど大きな話題となった。
・“日本一”と謳われる小笠原の夜空を楽しんでもらうため、お月見イベントを11月と２月に実施。内地で活動するボランティアと連携して、波音が漂う海岸にて、初となる月見イベントとJAZZコンサートをコラボで実施し、離島ならでは夜の愉しみを創出した。満員御礼となり、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しめるイベントとなった。
・小笠原に縁が深い人物の歴史紹介として、園内で「ジョン万次郎展」を5月から実施。お墓が都内の雑司ケ谷霊園にあり、当施設でも企画展を行った実績から、SNSやポスター設置によりイベント情報を相互発信し約4,500人が来場した。

6　利用者アンケート結果

実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
大神山公園	4.8	4.7	4.7	4.9	4.8

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
大神山公園	473,229	島内外の事業者やボランティアと連携し、小笠原の魅力を楽しめる多彩なイベントを展開した結果、利用者数が増加した。
合　計	473,229	

大神山公園

世界自然遺産小笠原の玄関口
Trigger Park 大神山公園

所在地：東京都小笠原村字東町／開園面積：15.31ha

小笠原でしか味わうことができない多様な魅力を発信

NEW マッコウクジラの骨格発掘体験

クジラの死骸が５月に兄島に漂着し、骨格標本を製作するため大村海岸に埋めた。11月に島内事業者と連携し、骨を発掘するイベントを初めて実施。**本物の骨格に触れながらクジラの大きさを体感し海中の生態を知る貴重な機会**と思い出となった。ネットニュースにも取り上げられるなど大きな話題となった。

島でも珍しいクジラの骨発掘体験

NEW “日本一美しい夜空”で月見とJAZZを満喫

“日本一”と謳われる小笠原の夜空を楽しんでもらうため、内地で活動するボランティアと連携して、11月と３月にお月見イベントを実施。特に11月は園内でのJAZZコンサートと連携して、**初となる月見とJAZZイベントをコラボで実施し、離島ならでは夜の愉しみ**を創出した。満員御礼となり、幅広い年齢層が楽しめるイベントとなった。

JAZZが流れる砂浜でお月見を愉しむ

NEW 漂着海ごみで作るアート

砂浜清掃で集めたプラスチックごみの利活用のため、２月に海ごみアートの作成イベントを実施。クジラのオブジェなど、参加者が自由な発想で作成した。**作品は砂浜のある葛西臨海公園でも出張展示し、海の環境保全の重要性を伝える**ことができた。

漂着ブイがイルカに変身

NEW ジョン万次郎の展示連携

小笠原に縁が深い人物の歴史紹介として、５月から園内で「ジョン万次郎展」を実施。お墓は昨年度150周年を迎えた雑司ケ谷霊園にあり、双方で事業紹介をする連携展示を行った。**イベント情報を相互で発信**し、**約4,500人**が来場した。

霊園の150周年の企画展を小笠原でも実施

NEW 観光体験を動画配信

南国の雰囲気を感じる小笠原への観光気分を味わってもらうため、**おがさわら丸の入出港など島特有のおもてなし風景の動画を作成。**公園協会の公式Webサイト（Ｘ（旧Twitter）等）で発信して、**「身近に感じられる小笠原を発信」**した。

島民総出の出港のお見送りを動画配信

小笠原を愛する若い人たちによる環境保全。子どもたちの環境意識を向上

NEW「固有種を守る」を次世代の子どもたちと

子ども達に自然への関心を寄せてもらうため、２月に園内の固有種育成エリアにてシマザクラの苗木の植栽イベントを実施した。イベント後も**同エリアに水やりじょうろを常設**することで、通りかかった小学生や保育園児などが水やりする姿があった。**気軽に固有種保護に参加できる環境を整備**した。

固有種植栽、水やりも利用者参加で

NEW 総合的な学習の時間への協力

地元の小学生の依頼により、総合的な学習の時間で「植物博士になろう！」を島内事業者と連携して実施した。**フィールドワークの活動場所として初めて大神山公園を取り入れて園内の植物の生態を学んだ。**また、子ども達の取組紹介として、「自分たちにできる保全活動」の解説パネルを園内に展示を設置した。

初の公園内でのフィールドワーク

パークミーティングによる地域と一体となった公園管理

NEW ご意見を聴いて公園管理に反映

地域の声を公園の運営管理に取り入れるため、パークミーティングを２回実施。参加団体は**昨年度の３団体から８団体へと拡大**した。**「園内散策時に現在地が分かりにくい」**という地域の声に応えて、**現在地マップを増設することで利便性を改善**。２回目では、その改善結果を報告するなど、地域と一体となった公園管理につなげた。

利用者意見を踏まえて園内現在地マップを設置

小笠原の特性を踏まえた維持管理・防災の取組。参加者が前年比7倍以上に増加

Update ウミガメが産卵できる砂浜

ウミガメが産卵するために快適な砂浜が確保されるように、園内海岸の植栽刈込を**東京農業大学の学生ボランティアと協働して実施**した。伐根作業までやり遂げた大学生からは**「また来年作業に来ます」との声。**大変な作業ながら、楽しく環境改善活動が行えた。

大学生ボランティアの作業により砂浜が復活

Update 防災の取組パワーアップ

地域の防災意識向上のため、**昨年度１回であった「防災体験会」を12月に２回**実施。車いすの使用方法などをクイズで学ぶイベントとし、**参加者は昨年度の７倍以上の81人**となった。非常食の配布も行い、物流に課題がある島事情に対応した訓練を実施した。

車いすの機能を触って乗って体験して理解